

令和5年度日本小児血液・がん学会 臨時社員総会
保険診療委員会活動報告

2023年9月18日
担当理事 小川千登世
担当副理事 富澤大輔
委員長 後藤裕明
副委員長 関水匡大

I. 3-ヨードベンジルグアニジン (131I) (MIBG-I 131 静注) の難治性神経芽腫における開発要望について

経緯；第II回「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議（2010年）」において、MIBG-I 131 静注の甲状腺髄様癌と神経芽腫に対する開発要望が、日本核医学会および日本小児がん学会を関連学会として提出されていた。2022年、褐色細胞腫を適応症としてMIBG-I 131 静注が保険承認され、甲状腺髄様癌と神経芽腫に対する開発について、改めて両学会からの見解が求められた。医療環境の変化により甲状腺髄様癌に対する開発必要性は乏しいと回答したうえで、「難治性神経芽腫」に対する開発要望をあらためて提出することになった。

日本核医学会と協議のうえ、本学会が担当者となり、2023年9月12日に検討会議への要望書を提出した。

要望内容

医薬品；ライアット MIBG-I 131 静注（PDR ファーマ株式会社）

効能・効果；難治性神経芽腫

（現在承認されている効能・効果；効能又は効果：MIBG 集積陽性の治癒切除不能な褐色細胞腫・パラングリオーマ）

用法・用量；296～666 MBq/kg（8～18 mCi/kg）を1時間から4時間かけて静脈投与する。